

日本語における

「～なければなりません」の構造の分析

(形態統語論、意味論及び誤答分析からの考察)

フィルダウス

0642015



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学科

バンドン

2013

日本語における「～なければなりません」の構造の分析

序論

日本語の品詞分類を10種類に分類した：名詞、動詞、形容詞、形容動詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞、助動詞、助詞。

日本語の品詞分類の10種類のうち、2つの主なグループに分類できる：自立語と付属語である。自立語は単独で意味を持つことができる言葉である。他の言葉なくても自立できる。一方付属語は単独では意味がない。他の言葉がなければ自立できない。

富田は

わたしたちの「行動・動作」や「様子・状態」、わたしたちの周りにあるものの「動き・変化」や「状況」などをあらわす単語を動詞と言う

と言った。

すべての動詞は「～なければなりません」が使えるわけではない。「～なければなりません」に影響を与える統語論や意味論の要因はこの研究のテーマである。

日本語の形態統語論と意味論の研究の中で、「～なければなりません」のモダリティにはどんな使用方法や意味や動詞が使えるかなどを分析する研究である。

牧野と筒井は

もしだれかがアクションを取らないと「～なければなりません」は使えない

と言った。

志乃は

「～なければなりません」は、ある行為が義務であること、必ず必要であることを表す表現である。「～なければなりません」は自分とほかの人でアクションを強調することができる。また一般的な知識を表現することもできる

と言った。

「～なければなりません」が使える動詞を分かるように、動詞の意味論のカテゴリを使う。日本語の動詞の意味論のカテゴリは 4 つある。状態動詞、継続動詞、瞬間動詞、第四種の動詞である。

本論

この論文の分析は動詞形態論のカテゴリを使って、分析は次のように行う。

動詞形態論のカテゴリは五段動詞と一段動詞と 変格動詞である。

1. 乗り物の中ではお年寄りに席を譲らなければならない。

上の文には、動詞グループⅠ 五段動詞に含まれる。動詞「譲る」は「～なければならない」が付き、「譲らなければならない」になる。動詞「譲る」はほかの人に物をあげると言う意味である。動詞「譲る」は未然を意味している継続動詞に属する。

2. 自分の可能性、仕事の可能性を信じることができなければなりません。

上の文には、動詞グループⅡ 一段動詞に含まれる。動詞「できる」は「～できなければなりません」が付き、「できなければなりません」になる。動詞「できる」はなにかをする能力があると言う意味である。動詞「できる」は状態を示す状態動詞に属する。

3. けっきょくの所人間はそこにある物で満足しなければならないのさ。

上の文には、動詞グループⅢ 変格動詞に含まれる。動詞「満足する」は「～なければならない」が付き、「満足しなければならない」になる。動詞「満

足する」は欲しがっている物は叶ったから、ほっとすると言う意味である。

動詞「満足する」は瞬間動詞と完了形の意味に属する。

4. 田中さんの息子さんはとても優れているそうだ。

上の文には、動詞グループ2 一段動詞に含まれる。動詞「優れる」は「～なければなりません」に使用することができず、「～ている」を使わなければいけない。動詞「優れる」はほかのものより良いと言う意味である。動詞「優れる」は第四種の動詞に属する。

結論

- 「～なければなりません」のモダリティは五段動詞と一段動詞と変格動詞に付くことができる。
- 意味では、「～なければなりません」がついていた動詞はしなければならない意味を持っている。「～なければなりません」の構造は広く一般的な知識を表現し、義務、それは自分自身や他の人のためのものであるか、それらへの関心を表現する行為を表示する時に使用する。
- 「～なければなりません」のモダリティは状態動詞と継続動詞と瞬間動詞を使用することができる。しかし第四種の動詞は違い、「～なければなりません」に使用することができず、第四種の動詞は「～ている」を使わなければいけない。

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	vii
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	6
1.3 Tujuan Penelitian	6
1.4 Metode dan Teknik Penelitian	7
1.4.1 Metode Penelitian	7
1.4.2 Teknik Penelitian	8
1.5 Organisasi Penelitian	8
BAB II LANDASAN TEORI	10
2.1 Morfosintaksis	10
2.1.1 Morfologi	10
2.1.2 Sintaksis	12
2.2 Semantik	14
2.2.1 Makna Gramatikal	15
2.2.2 Kategori Semantik Verba	16
2.3 Verba	19
2.4 ～なければなりません	20

BAB III ANALISIS ～なければなりません DALAM VERBA

BAHASA JEPANG	24
3.1 五段動詞	25
3.2 一段動詞	37
3.3 変格動詞	44
BAB IV KESIMPULAN	54
DAFTAR PUSTAKA	56
LAMPIRAN DATA	ix
LAMPIRAN DATA II	xx
SINOPSIS	xxxi
RIWAYAT HIDUP	xxxvi